示しと御頂戴也是ハ正当家に持途の一ツとなる事を後秀
台宣ふハ信雄ハ　家康より莫太の重恩ある身に
く　家康へ謹を向ひて謹先に立ぬさかるへき事之様
ゝに近頃の事し義を知らさる憶病者也ケ様のうつけ者に
大祿を与ふるハ無益也とく四十万石を其取放様にとも
信長の子なるを以ハ六万石賜入道より付織田常さと改名
せらきしと也

久世大和守仁心の事

久世大和守御側に勤ゆ時御脇に居上ゆ御側に居られる時
御汁の蓋に居れ様ゆ時を内に葉の中有し紋に様　御覧
御若しまく御をさみに様大和守と云ふ為石ゆ時蓋出ゆ御例へ
無ふ遣りしを是くとて件の中を御おしに様ゆへを夏手
を以御前に押いてきゆ口へ入り紋を御覧に様吏ハとの
上言有りしを御塩梅を見よとの　上言の様に心得
なしたるを　御説に様て役人をかそしてと　上言
しく御機嫌よかりしと也大和守仁心を　御前に感に
様とゝ見へたり其日の御脇に料理人とも大和守を後
に近佛神のごとく思ひしと也